



レイヤ2スイッチングのリフレクティブリレーの設定

- [リフレクティブリレー802.1Qbgについて \(1 ページ\)](#)
- [リフレクティブリレーのガイドラインと制約事項, on page 2](#)
- [NX-OS CLI を使用したリフレクティブリレーの設定 \(2 ページ\)](#)

リフレクティブリレー802.1Qbgについて

Cisco Nexus リリース 9.2 (1) 以降、Cisco Nexus N9K-C93180YC-FX および N9K-C93180TC-FX スイッチは、スイッチングオプションのリフレクトリレーをサポートしています。現在のリリースでは、Cisco Nexus N9K-C93180YC-EX および N9K-C93180TC-EX スイッチもサポートされています。この機能は IEEE 標準 802.1Qbg のタグレスアプローチです。ポリシーを適用し、必要に応じて、宛先またはターゲット VM サーバ上にトラフィックを送信する外部のスイッチへのすべてのトラフィックを転送します。ローカルスイッチングはありません。ブロードキャストまたはマルチキャストトラフィックは、リフレクティブリレーは、各 VM サーバでローカルにパケットのレプリケーションを提供します。

リフレクティブリレーは、スイッチング機能と管理機能に外部スイッチを活用し、サーバリソースを解放して VM をサポートします。リフレクティブリレーは、Cisco Nexus スイッチで設定したポリシーを同じサーバ上の VM 間のトラフィックに適用します。

リフレクティブリレーを有効にすると、着信した同じポートからのトラフィックを元に戻すことができます。NX-OS CLI を使用して、レイヤ 2 物理ポートまたはポートチャネルインターフェイスポリシーでリフレクティブリレーをイネーブルにできます。この機能はデフォルトで無効に設定されています。

用語 仮想イーサネット ポートのためのアグリゲータ 802.1Qbg を説明する (VEPA) が使用されるも機能します。

リフレクティブリレーのサポート

リフレクティブリレーには、次のサポートされています。

- Cisco Nexus N9K-C93180YC-EX、N9K-C93180TC-EX、N9K-93180YC-FX、および N9K-C93180TC-FX シリーズスイッチ。
- IEEE 標準 802.1Qbg タグのないアプローチ、リフレクティブリレーとも呼ばれます。
- 物理ドメイン：仮想ドメインはサポートされません。
- 物理ポートおよびポートチャネル：Cisco Fabric Extender (FEX) およびブレードサーバをサポートしません。リフレクティブリレーはサポートされていないインターフェイスで有効になっていると、障害が発生すると、最後の有効な設定が保持されます。ポートでリフレクティブリレーを無効にすると、障害をクリアします。

リフレクティブリレーのガイドラインと制約事項

反射型リレーには、次の設定ガイドラインまたは制限事項があります。

- Cisco Nexus リリース 7.0(3)I7(1) 以降、Cisco Nexus N9K-C93180YC-EX および N9K-C93180TC-EX スイッチはスイッチングオプションおよびリフレクティブリレーをサポートしています。
- リフレクティブリレー機能を使用する前に、ARP 抑制を無効にする必要があります。
- Cisco Nexus リリース 9.2(1) 以降、Cisco Nexus N9K-C93180YC-FX および N9K-C93180TC-FX スイッチはスイッチングオプションおよびリフレクティブリレーをサポートしています。
- Cisco Nexus リリース 9.3 (2) 以降、Cisco Nexus N9K-9336C-FX2 スイッチは反射型リレーをサポートします。
- すべてのサーバ側インターフェイスは、リフレクションリレーをサポートするように設定する必要があります。
- Cisco NX-OS リリース 10.2(2)F 以降、仮想イーサネットポートアグリゲータ (VEPA) 機能が Cisco N9K-9332D-GX2B プラットフォームスイッチでサポートされています。

NX-OS CLI を使用したリフレクティブリレーの設定

反射型リレーはデフォルトで無効になっています。ただし、ポートまたはポートチャネルでスイッチのレイヤ2インターフェイスポリシーとしてイネーブルにできます。CLI では、NX-OS テンプレートを使用して、複数のポートでリフレクティブリレーの有効化または individual ports(個々のポート、個別ポート)で有効にすることができます。

ステップ1 configure terminal

例：

```
switch# configure terminal
switch(config)#
```

グローバル コンフィギュレーション モードを開始します

ステップ2 interface ethernet 1/2

例 :

```
switch(config)# interface ethernet 1/2  
switch(config-if)#
```

ポートを有効 (オン) にしてください。

ステップ3 switchport mode virtual-ethernet-bridge

例 :

```
switch(config-if)# switchport mode virtual-ethernet-bridge  
switch(config-if)#
```

レイヤ2ポートをリフレクティブリレー機能のホストポートとして設定します。

ステップ4 [no] switchport virtual-ethernet-bridge

例 :

```
switch(config-if)# switchport virtual-ethernet-bridge
```

リフレクティブリレー機能をイネーブルにします。

(注) リフレクティブリレー機能は、アクセスポートまたはトランクポートでのみサポートされます。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。